

## IMO第52回航行安全小委員会(NAV52)の結果について

標記会合は、平成18年7月17日から21日までロンドンの国際海事機関(IMO)本部において開催された。今次会合における主な審議結果は以下のとおり。

### 1．ECDISの性能基準の改正（議題5）

現行性能基準の既知の欠落点の織り込みと表現が不正確な部分を修正するなどの整理修正を主内容としたECDIS（電子海図情報表示装置：Electronic Chart Display and Information System）の性能基準の改正案が策定された。本案は、次回海上安全委員会（MSC82：本年11月開催）で採択を求める予定。

### 2．船用ガリレオ受信機の性能基準の策定（議題10）

船用ガリレオ受信機の性能基準案が策定された。本案は、MSC82において承認を求める予定。なお、本性能基準は船用ガリレオ受信機単独での性能基準案であり、ガリレオ/GNSS複合受信機の性能基準案については未策定。

### 3．航海灯、航海灯制御器及び関連装置の性能基準（議題11）

航海灯、航海灯制御器及び関連装置の性能基準について、我が国より提出したLEDを使用した航海灯と白熱電灯を使用した航海灯の特徴の違いに係る報告文書が審議の際に参照され、LEDを使用した航海灯を考慮した性能基準とするべく、次回会合で引き続き審議を行うこととなった。

### 4．IACSの統一解釈の審議（議題14）

- ・ COLREG条約第23規則(a)の解釈としてマスト灯、舷灯及び船尾灯は二重化されたものでなければならないこと
- ・ SOLAS条約附属書第 2章2.2.1規則の解釈として、磁気コンパスの予備としてジャイロコンパスを搭載する場合には、1) 第 2章2.5.1規則に基づき備え付けたジャイロコンパスではなく、かつ、2) 主電源及び非常電源の他にバッテリー

等の電源を備えること等のIACSのCOLREG条約及びSOLAS条約附属書第 章の統一解釈が承認され、同内容のMSCサーキュラー案が策定された。これらの案はMSC82で承認される予定。

## 5 . その他の議題 ( 議題17 )

### ( 1 ) e-navigationの戦略検討

#### ( 背景 )

前回海上安全委員会 ( MSC81 : 本年5月開催 ) において、最新の技術を活用し航海の効率及び安全性を向上させるe-navigation戦略の検討を我が国、英国他5カ国により共同提案し、優先度の高い作業項目として採択された。本件に関連して我が国においても「航海支援に係る基準に関する調査研究」を開始しており、当該研究に関する文書を本小委員会に提案した。

#### ( 審議結果 )

e-navigationの戦略検討にあたっては、日本、英国他がMSCに提出した文書、本小委員会に日本が提案した文書等を考慮し、コレスポンス・グループを作成し、当該グループにおいてe-Navigationの定義及び範囲、主要事項及び優先順位の特典、便益と障害の特典、将来作業におけるIMO、関係国及びその他の関係者の役割の特典並びに作業計画の策定に係る検討を行うこととなった。

### ( 2 ) ECDISの搭載義務要件

ECDISの搭載義務要件の検討について、MSC81にデンマーク、ノルウェーが提案した「ENC ( 航海用電子海図 : Electronic Navigational Charts ) が整備されたとの仮定のもとではECDISの搭載は費用対効果の面でも有益」とする内容の文書に対し、我が国が「ENCの現状の整備状況を考慮したFSAを行った結果、ENCが十分整備されていない航路にあっては費用対効果が現れない可能性もあるため、ECDISの搭載義務の時期とENCの整備の時期とを整合させるべき」とする内容の文書を提案したところ、ICS、韓国、南アフリカ、イタリア、パナマ、ペルー、ギリシャ、チリ、シンガポール、ウルグアイ、ベネズエラ等多数の国・機関の支持を集めた。上記を踏まえ、本件は次回会

合において更に検討が進められる予定。

( 3 ) 先進安全航行支援システム(INT-NAV)に関する評価結果の報告

船舶の衝突防止に係る操船者の負担軽減と判断支援のため、現在我が国において、開発を進めている先進安全航行支援システム(INT-NAV)について、その基本機能の紹介とその有効性の評価結果を示した報告文書を本小委員会に我が国から提出し、本会議において詳細内容を説明した。

また、本小委員会開催中の7月17, 18両日に、先進安全航行支援システム(INT-NAV)のシミュレータ体験デモンストレーションを実施し、操船実務者、訓練機関関係者及び航海機器メーカーから延べ約100名の見学者を得た。この間、活発な質問及び意見交換が行われ、多くの肯定的な意見、建設的な助言を得た。また、数カ国からこれまでの我が国の取組を通じた協力の依頼と共同作業の提案があった。

今後、海上衝突事故を減らすIMOの国際的な取組に対して、関心ある多くの国々と協力して貢献を図っていくため、さらに同システムの機能充実等に取り組む予定。